

大学と連携して実施する 夏期学生地域医療実習

	幡多医療圏にある県立病院 (355床、18診療科)での実習	へき地医療機関での実習
実施主体	高知大学医学部 家庭医療学講座 地域枠学生サポートWG	高知県、へき地医療支援機構 高知県へき地医療協議会 国保連合会
対象者		自治医科大学高知県出身学生 国保修学生(高知大学、他大学)
	地域枠等、医師養成奨学資金受給者(高知大学、他大学) 高知大学医学部一般学生	
人数	高知大学医学部学生20名程度	高知大学医学部学生10名程度 自治医大学生12名程度

まとめ

- ◆ 当該市町村と県、現場医師の三者で構成される組織づくりを背景とした、キャリアパスがイメージできる人事
- ◆ 現場医師と行政とのパイプ役として、県庁主管課にへき地医療勤務経験をもつ臨床医を配置(支援機構)
- ◆ へき地医療拠点病院に医師を集約して、周辺のへき地診療所への代診や医学教育にも対応できる体制づくり
- ◆ へき地医療機関での医学生・研修医教育には、県が一定の関わりをもって派遣調整をおこなう必要がある
- ◆ 自治医大の学生だけでなく、これからは大学とも連携して、地域枠や奨学金制度の医学生との関わりを密に保つことも必要